グローバル４大学 トップ座談会

4大学が特徴,個性を活かしながら,日本の大学のグローバル化を切り開く

2010年4月，国際教養大学(AIU)，国際基督教大学(ICU)，立命館アジア太平洋大学(APU)，早稲田大学国際教養学部(SILS)は，国際的人材の育成を目指して，グローバル4大学(G4)連携協定を締結した。どのような課題認識をもってG4は協定を結んだのか，そのねらいや，将来目指すものは何なのか。今回は，AIU，ICU，APUの学長と，早稲田大学国際教養学部長にお集まりいただき，グローバル人材の育成に向けた日本の大学の課題について，熱くディスカッションしていただいた。

グローバル４大学

国際教養大学(AIU) 学長
中嶋 嶺雄

国際基督教大学(ICU) 学長
鈴木典比古

立命館アジア太平洋大学(APU) 学長
是永　駿

早稲田大学国際教養学部(SILS) 学部長
森田 典正

〈司会〉

リクルート「カレッジマネジメント」編集長
小林　浩

東京大学大学院教育学研究科 講師
両角亜希子

職員から始まった4大学の交流

司会　まずはグローバル4大学(以下, G4)交流のいきさつを教えてください。どのように始まり, どのような活動が行われているのでしょうか。

中嶋　このG4の交流は大学職員から始まったところが最大の特徴です。うちの大学の場合ですと, 留学生の担当者がお互いに学ぼうということで始めた次第です。非常に良い活動なので, 学長も賛同して, 昨年の4月に4大学協定を結びました。

鈴木　職員の方もここまで発展すると想定してはいなかったのではないでしょうか。それぞれの大学が教育の国際化に向かって模索するなかで職員としてどういう問題があるのかを悩んでいた面があり, それを少しずつ, お互いに電話なんかで聞きあっていたところから始まりました。「それならば1回会いましょうよ」と会い, 問題の共有が始まり, 場所を変えて何度か会ううちに「職員だけでシェアしていてはもったいない」と学長が集まるということになりました。

この4大学は, 最近国内でも増加傾向にある「国際教養」あるいは「リベラルアーツ」という学部・学科のなかでもパイオニア的な大学という点で共通しており, このことが目的をシェアできる土台になっているように思います。

森田　私は4大学の協定が結ばれた時は教務主任で, 昨年の9月に学部長になったので当時の背景にそれほど詳しいわけではありませんが, 職員の方々にずいぶん話を聞かせてもらいました。国際教養大学(以下, AIU)は公立大学, その他の3校は私立大学で, いわば互いにライバル校ですが, 留学生のリクルートをどうするのか, 卒業後のキャリアをどうサポートするのかなどの情報を, 4大学それぞれが囲い込むのでなく, シェアすることを心がけています。このことにとても驚きました。例えばアジア圏の高校からどのように留学生を連れてくるのかといった情報もずいぶん立命館アジア太平洋大学(以下, APU)から教えていただき, とても助かりました。

司会　この4大学を併願する高校生は多いのでしょうか。

「一番重要なのは
しっかりとした教養。
そして実践的な
コミュニケーション能力としての
英語と, 第二外国語」　中嶋

中嶋　入試の形態にもよりますが, 併願は多いですね。そういう意味では確かに競争する面もありますが, いい意味での競争であって, 決して悪いことではないと思います。

司会　互いに切磋琢磨できるのかもしれませんね。G4が目指すものは何でしょうか。

中嶋　日本の大学はグローバル化に対してかなり立ち遅れていると思います。この状況を私は「知の鎖国」と呼んでいますが, ほとんどの大学が, 日本語で日本人が日本人に教えている状況ですよね。4大学がそれぞれの特徴, 個性をもちながら, 国際化に対応し, こうした状況を切り開いていこうというのが, G4の目的です。国際基督教大学(以下, ICU)は戦後早くからグローバル化を目指した大学ですし, 我々AIUもかなり思い切ったことをやっています。APUはアジア・太平洋地域の高校生を引きつけることに成功していますし, 留学生が卒業後は日本で就職することに大学として力を入れている点で先進的です。早稲田大学は非常にブランドが高く, 国際教養学部を初めから目指す高校生も増えてきています。そうした意味で非常にユニークな4大学が集まっています。

鈴木　それぞれの大学が特有のミッションを達成しようとしているから, 4大学は共通点をもちつつも個性を発揮しているわけです。

森田　中身はかなり異なっているからこそ，4校ある意味があると思います。早稲田は規模が大きい点に特徴がありますが，実は設置計画の段階までは，私はもっと規模を小さくして本当にグローバル人材を輩出できる体制を整えることが重要だと考えていました。大学の方針で現在の規模になりましたが，結果的には良かったと思っています。早稲田は一部のエリートのための大学ではなく，いわゆるマスプロ大学として発展をしてきた大学なので，できるだけ多くの学生をグローバル人材に育て上げることこそが大学のミッションに沿ったものであり，早稲田にふさわしいと思うからです。

司会　なるほど。職員の交流以外にどのような活動が始まっていますか。

中嶋　学生同士の交流が始まっています。例えば，去年の夏には秋田の鳥海山のふもとに4大学の学生が集まりました。ここはいわゆる中山間集落で伝統文化がだんだん消失していく問題を抱えていますが，学生たちがそれを復活できるような形で映像を記録し，いかにこうした伝統文化をグローバル化につなげていくのかといったシンポジウムも開催しました。

AIUとAPUの2校間での国内留学も始まっています。APUからは3名，AIUからは2名の学生が1学期間を相手の大学で過ごしました。これはぜひICUや早稲田ともできるようになっていけばよいと思います。APUも我々の大学も非常にローカルで自然豊かな場所にありますが，東京にいる留学生がこうした環境で過ごしたり，逆に，うちの学生が都会の大学に行ったりできたらよいなと考えています。

「大学のグローバル化に関する職員研修」の様子（2010年3月16･17日開催）

司会　G4での交流活動は今後，どのように発展させていく予定でしょうか。

中嶋　学生の交流をさらに進めていきたいですね。

是永　学生だけでなく，教員も移動するのもいいですね。共同の授業やコースを作って単位を出せるようにしていくようなことも目標です。

鈴木　例えば将来，G4で共同学位制度を導入するということになれば，教員がお互いの大学を訪問しあってモデル授業を開講する必要も生じるかもしれませんね。4大学で競い，協力し，良い人材を一定数輩出して，グローバル教育の必要性を世に問うてみたいと思います。

グローバル人材とは何か

司会　今回のテーマはグローバル人材の育成ですが，そもそもグローバル人材とは何なのでしょうか。どういった条件を備えた人材を指すのでしょうか。

是永　私はグローバル人材には，言語力，対応力，価値観が必要だと思いますし，そうした能力を日常の授業で鍛えることが大事だと考えています。特に自分の価値観をもつということはきわめて重要です。本当の意味のグローバル人材というのは突き詰めていけば，我々人類がたどってきた歴史の一つの到達点である普遍的な真理をもつことではないでしょうか。APUのミッションは，自由，平和，人間性ですが，この普遍的な真理を事あるごとに学生や教職員に伝えるようにしています。例えばグローバルな世界では国益で衝突することもありますよね。対話を通じて高い次元に到達するためにも何か普遍的なものが必要なのです。

中嶋　グローバル人材に必要な要件として，まずは実践的なコミュニケーション能力，発信力が重要で，これは圧倒的に英語だと思います。ただこれからの時代は英語以外の第二外国語をものにすることも大事で，そうしたシステムを作っています。例えば韓国語なら初級を1セメスター，中級を1セメスター学びますが，そういう学生の多くはソウル国立大学や高麗大学に1年ほど留学します。韓国語は日本人にとって学びやすい言語なの

で英語以上に上手になって，結果的に良い就職状況にもつながっています。

もちろん口先だけでぺらぺら英語をしゃべれるだけでは本物のグローバル人材ではありません。一番重要なのはしっかりとした教養を身につけていることです。AIUの場合は全員が留学しますし，1年の時から外国人学生と学生寮でシェアしながら暮らします。トイレの掃除をしない外国人にどういうふうにするのか，これも一つの文化摩擦ですが，こういうことを乗り越えていくなかで，非常に友情が深まるという例があります。

森田　グローバル人材というのは最近言われている言葉ですが，グローバル化と国際化ではどこが違っているのだろうと考えてみました。私が学生のころ，国際化というのは日本人の学生に英語を教育して，国際舞台で活躍できるようにするイメージでした。他方，現在のグローバル化は世界のあらゆる国，地域で一斉におきていて，国籍や人種とも無関係の現象だと思います。うちの学部では，学生をどの国籍かと分類するのが非常に難しい。例えば，アメリカで生まれ育って日本語はほとんどできず，アメリカのパスポートをもっているけれど，両親は日本人で，姿かたちは日本人の学生がいます。それからロシア人で例えば小学生の時に神戸市に移り住んで育って，地元の高校を出て，一般入試で大学に入ってくる学生がいますが，そうした学生はなに人と考えればいいのでしょうか。

是永　おっしゃるとおりで，APUの学生も80～90カ国の2600名ほどの留学生と暮らしています。そうするとなに人というのは意味がなくなってくるのです。国境という意識が薄れて，そういった意識より先に1人の人間として見るようになるのです。

森田　グローバル化された人材というのはこれから増えてくるのではないかと思いますし，我々も学生をそうなるように育てていくわけですが，グローバル化といっても世界中がすべて均一，均質になるのではありません。グローバル化の一方，地域性や地方性は失われないどころか，逆に，より強く意識されているように思うのです。国際教養学部では英語だけ話せる人材ではなく，英語をグローバルなツール・媒介として使い，地域性や地方性を多国籍の学生が学ぶ多文化空間を作っています。学生をリクルートする時にも，地理的多様性や文化的多様性に気を配り，できるだけ多くの地域から多くの学生を招き，日本人と一緒に生活させていますし，逆に日本人を海外に出す場合も，できるだけ多くの学生を非英語圏に送り出しています。例えば北欧やオランダでは英語を使って授業が行われている大学が多いので，英語のプログラムで学ぶのと同時に，その地域の言語や文化をも吸収しています。こうしたことを経験した者こそがグローバル人材だと考えています。

鈴木　グローバル化の根底にはIT（情報技術）がありますが，その目指すところは情報の共有による同質化です。同質化には利便性もありますが，極端なまでに進めていくのは危険です。だからグローバル化社会において，同時に多様性を保つことは国や文化にとっての責務だと思います。国や文化の最小単位である個人というのは根なし草でなく，価値観や文化的背景に根ざした個を堅持していなければならない。そうした人材こそがグローバル人材なのです。

司会　G4の4大学はいずれもリベラルアーツや教養を重視している大学ですが，お話を伺うと，グローバル人材を育てる時に教養教育が必要になるのはそれなりの理由があるという感じがしますね。

鈴木　教養教育という言葉は時に「広く浅く学ぶことである」という誤解を与えるので，私はいつも「リベラル

グローバル4大学の概要

大学名	国際教養大学	国際基督教大学	立命館アジア太平洋大学	早稲田大学国際教養学部
略称	AIU	ICU	APU	SILS
英語名	Akita International University	International Christian University	Ritsumeikan Asia Pacific University	Waseda University, School of International Liberal Studies
創設年	2004年	1953年	2000年	2004年
所在地	秋田県秋田市	東京都三鷹市	大分県別府市	東京都新宿区
学部学生数(正規学生のみ)	763名	2728名	5816名	2855名
留学生数(正規・非正規を問わない)	139名	158名	2654名	1027名
英語による授業の割合	100%	30%	50%	90%
留学	必修(英語集中プログラム修了後, TOEFL 550, GPA 2.50以上)	可(必修ではない)	可(必修ではない)	必修(4・5学期)
教授会の言語	英語	日本語・英語	日本語・英語	日本語・英語
学部	国際教養学部の1学部	教養学部の1学部	アジア太平洋学部(APS)と国際経営学部(APM)の2学部	国際教養学部
専攻の数	グローバル・ビジネス課程とグローバル・スタディズ課程	32メジャー	APSは5クラスター, 2学部とも2011年度から4コースを新設	7クラスター(科目群)
専攻の選択時期	入学2年後を目途	2年次最終学期	入学時点	特になし
専任教員数(学部)	46名(学部)	155名	172名	72名
外国国籍の専任教員割合	52%	37%	44%	38%
コース・ナンバリング	あり	あり	あり	あり
GPA制度	あり	あり	あり	あり
大学暦(学期)	セメスター制	3学期制	ゼミと語学はセメスター制, それ以外の講義はクォーター制	セメスター制
秋入学制度	あり(ギャップイヤー制度もあり)	あり	あり	あり
学生寮	入学後の1年間は全員, 寮生活を送る。	教育寮の位置づけで国内外約380名の学生が寮に暮らす。2010, 11年に新学生寮が計3棟(計約380名収容)完成。	国際学生と国内学生が共同生活を行う学生寮で約1300名の学生が寮生活を送る。	早稲田大学全体として, 留学生寮を多数保有。

(注) 各大学のHP・保坂亜矢子「英語による教育プログラムの実践とその効果」(東京大学大学院教育学研究科, 修士論文, 2011年1月)より作成。
学生数は2010年5月時点(AIUは2010年4月時点)。教員数はICU, SILSは2010年4月, AIU, APUは2010年5月時点。

アーツ」という言葉で説明しています。グローバル人材を育てるには, いわゆるリベラルアーツが重要です。語源はアルテス・リベラーレス, つまり人間を誤解や迷信, 社会の圧政などから自由にするための技芸なのです。非常に実学的・行動的・全人的なものなのであり, 単なる「教養」ではないのです。

森田　確かに教養という言葉の響きには人間教育として型にはめるところがありますね。うちの日本語の名称には教養と入っていますが, 英語名はLiberal Studiesですし, 国際教養大学も英語名はAkita International Universityで教養という言葉は入っていません。英語名称と日本語名称が異なっていて, そこのところはいささかぎこちないところですが, 私の学部の精神も解放にあるという点では, 鈴木先生のご理解と同じではないかと思います。

是永　結論がないという前提で人間がいかに進むかということなのです。前例や正解が見えないなかで, どうやって考え, どうやって動くのかで, そこまで育成して

初めてグローバル人材ということになるのかもしれません。難しいことですけどね。

グローバル人材の育成に必要なのは"標準化と多様化"

司会　こうしたグローバル人材を日本の大学が育成していくために，何が必要でしょうか。

中嶋　大学にとって一番大事なのはカリキュラムですが，ほとんどの大学でカリキュラム改革がまだ進んでいないと思います。カリキュラムの後ろには教員がいて，教授会自治があるので，なかなかそこは変わらない。これは日本の大学の一番の問題点だと思いますね。その点では学長のリーダーシップが非常に必要とされるのではないでしょうか。

鈴木　カリキュラム改革を実現するためにも，テクニカルな問題ですが，コースの番号化などの標準化が不可欠です。100番台は基礎科目，200番台は中級科目，300番台は上級科目といったように，授業科目のレベルに応じて構造化して，科目番号(international code)をつけ(コース・ナンバリング)，そこに配列された科目についてシラバスを用意しておかなければなりません。こうした構造をなしに連携して学生を交換し合っても意味がありません。G4の4大学においてもそれぞれのカリキュラムが構造化され，100番台はどこで履修しても同じレベルということが保証されなければ学生は他の大学で科目を履修できないし，自大学の単位として編入できないのです。これはG4のなかでもそう簡単ではないと思いますが，こういった取り組みを英語でも行えれば，大学の教育水準を世界標準に引き上げることができるのです。高等教育のグローバル化のためには，こうした基本的なシステムの整備が，きわめて重要です。

中嶋　AIUは授業科目ごとにコース・ナンバー(国際的な科目コード)をつけています。だからこそ，学生が他の大学に一年間短期留学する時に事前にカリキュラムが組めるのです。あとはセメスター制とGPAも必要ですね。意外にGPAまでやっている大学は日本に少ないので，それが次の課題ですね。

是永　コード化された授業の中で，授業の中身も総合的に行うことが大事です。APUでは成績評価の基準も，

ペーパーテストは50％以下で，それ以外に学生にプレゼンテーションやグループ討議をさせたり，レポートを書かせたりして，評価をするようにしています。昨年，ハーバード大学のサンデル教授の白熱教室がはやりましたが，双方向的な授業はAPUでは10年前からやっています。例えば，尖閣列島問題を中国の学生も含めて，何カ国もの学生がいろんな意見を言い，先生がきちんと解説する。これは一つの例ですが，そういう場を授業の中で提供することは非常に重要です。

中嶋先生はセメスター制とおっしゃったけれど，APUではゼミと言語以外の講義はクォーター制でやっています。例えば海外から2カ月先生を招へいしたり，学生が海外の大学に短期留学する場合にもとても便利です。海外の大学でもクォーター制を採用している大学は案外多いのではないでしょうか。

司会　大学のグローバル化の要件として，コース・ナンバリング，セメスター制あるいはクォーター制，GPA，教育の中身や教え方が重要ということでしょうか。

是永　あとは教員の評価制度も重要で，APUでは厳しくやっています。

中嶋　AIUも徹底的にやっています。教職員は3年任期で毎年，5段階評価をして年俸も決まります。授業もオープンにしていますから，学生による評価だけでなく，ピアレビューいわゆる同僚評価も受けますし，ディレク

ターや学長による評価もあります。こうした評価を通じて大学の中が活気あるものになることが重要です。

先ほどの，グローバル化の要件ですが，グローバルなカリキュラムをどう作るか，具体的にはどういう授業科目を提供するのかも非常に重要です。是永先生のおっしゃった尖閣列島の問題など，セキュリティや国防に関する問題は普通の大学ではほとんど教えませんが，安全保障の問題は非常に重要なのでAIUでは授業を開講し，皆で議論しています。また日本の多くの大学に人口学(Demography)の授業がないですが，私は非常に重要だと考えており，開学時点から人口学の授業を出しています。

是永　APUでもハワイ大学の先生などを呼んで安全保障の授業を開講しましたが，大切な問題ですよね。どの国も国益という発想をしますが，それを超えた新しい国家間の対話力に結びつくような授業はとても大切です。

鈴木　先ほど申し上げた標準化と同時に，こうした意味での多様化を同時に達成することもまた重要なのです。提供している授業科目までが標準化されたら，学生が「渡り鳥」になって他の大学でも学ぶ必要はないわけですから。競争し，棲み分けながら，協力する大学連携の姿を，カリキュラムの上で表現しなければなりません。

司会　専門領域をもつ先生方にとって授業科目の多様化は受け入れられやすく思えるのですが，多様化と同時に標準化，構造化するためにはどうしたらよいのでしょうか。

鈴木　これは非常に難しい問題です。開講科目を構造的に組み替えなければなりません。教員は自身が現在開講している科目について「私が教えているのは入門編です」とはなかなか言えない。しかし，大学の制度上，あるいは学生の立場・目線で考えるとすべてが400番台（卒業間際に履修する専門性の高い科目）であるはずもなく，学生は入門編的な科目，つまり「100番台」の授業から順に履修するような仕組みになっています。こうした大学教育の標準化が，教育の質の保証にとって，学生にとって最重要なのだと教員が理解することが不可欠です。

司会　ICUはリベラルアーツを標榜する伝統ある大学ですし，他の3校については比較的，最近になって創設されています。新しい大学や学部では，こうした問題意識で教員を採用し，新しいカリキュラムを組みやすいと思いますが，多くの既存の大学にとっては難しい話ですよね。

森田　早稲田大学の例をお話しするのが良いかもしれません。国際教養学部は2004年にできた新しい学部なので，コース・ナンバリング，GPA，セメスター制だけでなく，グレード・ディストリビューション（成績評価の配分ルール）もしっかりしています。例えば，A（優）は何%，B（良）は何%という共通ルールがないところで，GPAを作ってもまったく意味がないのです。また，academic probationという，あまり学業の振るわない学生に声をかけてサポートするような制度もあります。実はGPA制度を早稲田大学全体で作るという議論がなされました。2年間かけて話し合い，全学で統一した形のものはできましたが，各学部でそれを用いるのかは学部の選択に任せることになりました。また，GPAは成績証明書にも載せないで，別紙に印刷する形になって，欲しい人には出せるような形になっています。既存の歴史の古いところで，こうした制度を作ることに対する抵抗はかなり大きいのではないかと思います。

中嶋　長い間，国立大学にいたので痛感するのですが，文部科学省の政策自体が旧帝大を中心に国立大学優先主義が非常に強いです。予算の配分の仕方を変えて，例えば，G4のような大学には重点的に配分するようになれば，日本の高等教育はもっとグローバル化するのではないかと思います。

規模でなくグローバル化の基準で政策を

司会　政策の話が出ましたので，政策に求めることについてお聞きしたいと思います。事業仕分けの対象になってしまいましたが，国際化の拠点を整備するために文部科学省も「国際化拠点整備事業（グローバル30）」を開始し，13校が採択されています。G4のなかでは，早稲田大学と立命館大学も採択されていますが，こうした政策に対するご意見を聞かせていただけますか。

中嶋　ICUとAIUを欠いたグローバル30はあり得ないのではないかと思います。採択校はすべて非常に規模の大きい大学ばかりです。外国人教員がどれくらいい

るのか，留学生がどれだけいるのか，その留学生がどういう形で就職しているのかなど，グローバル化の比率基準で測っているわけではないのです。こうした政策は非常にまずいと思います。

是永　立命館大学としては採択されていますが，APUは補助金をもらっていません。先ごろ，グローバル30の見直しがあり，今度は大学の国際化のためのネットワーク構築が政策課題になっているようですが，ネットワーク以前に大学自身がもっと国際化しなければダメなのではないかと思います。また留学生を日本に呼びたいのであれば，宿舎や寮を完備しなければならない。もし国際寮を作る予算がないのなら，ODAを還流させるとか方法はあると思うのです。こういった整備をしないで人数だけを増やそうとしても無理な話です。京都の立命館大学では，グローバル30をうけて，APUの実験的な取り組みを参考にまず秋入学の導入，職員の英語対応，英語による授業から始めています。

中嶋　G4は留学生が多いですが，日本の留学生政策は基本的に排除の論理です。主な国立大学で留学生は定員外です。定員の中に入れると日本人を減らさなければならないということで入れていないのです。またほとんどの日本の大学では，留学生は日本に来て試験を受けます。日本に来てようやく研究生になり，大学院を受験したりするのはすごい負担です。AIUは大学院の規模は小さいですが，全員書類選考でやるようにしています。日本から外国の大学に行く時にTOFEL®やGRE®などの成績で選考されるのと同じことなのですが，そうすると，海外からの応募が意外に多いですね。

是永　APUでは現地面接もやっています。留学生政策についてはもっと奨学金を出してもらいたいですね。オランダ，オーストラリア，シンガポールなどの政府は留学生にかなりの奨学金を出すので，日本の大学は太刀打ちできません。

森田　最後に1つだけ言わせてもらいたいのは，グローバル人材を育てるのは非常にお金がかかるということです。早稲田はG30の採択校ですが，他の3学部に配分されており，実は国際教養学部は補助金を受けていません。文部科学省の方針としてすでにグローバル化対応しているところにはお金を出さないようですが，なんとかしてもらいたいという思いはあります。

また，グローバル人材の育成は産業界からの要請が強いにもかかわらず，産業界もあまり支援してくれていないようにも思います。我々の学部でも寄付講座という形のサポートを受けていますし，台湾の企業から留学生の奨学金をいただいていますが，我々が育成して学生が企業に勤めて第一線で活躍していくことを考えれば，ぜひともさらに支援してもらいたいと思います。

司会　最後に，非常に魅力的な教育を行っているG4というグループに，ぜひ入れてほしいという大学もあるのではないかと思いますが，そうした申し出があったら，G4は広がっていくものでしょうか。

中嶋　今日お話ししたような教育を本当に目指す大学が出てくれば我々は歓迎です。

是永　先ほどお話ししたようにコース・ナンバリングをふって，カリキュラムもきちんと整え，授業評価，GPA制度，教員評価制度などを厳しくやることは既存の大学ではすぐには難しいでしょうね。

鈴木　是永先生が指摘された要件をすべて制度化し運用する大学，できれば国立大学の中にそのような大学が現れるといいなあと思います。

司会　本日は大変貴重なお話をいただき，ありがとうございました。■

（文／両角亜希子 東京大学大学院 教育学研究科大学経営・政策コース講師）

大学のグローバル人材育成はどこまで進んでいるか

● 全国の大学における国際交流の状況
● 国際系新設大学，学部・学科設置の最新動向（2000年以降）

両角亜希子　東京大学大学院教育学研究科講師

グローバル人材の育成のために，個別大学はどのような取り組みをしているのだろうか。特に学士課程の中で，大学が4年間かけてどのようにグローバル人材を育てようとしているか，現状を整理してみたい。ここでは，文部科学省の最新の調査結果から大学全体の国際交流の状況を確認するとともに，最近の国際系の大学新設，学部・学科設置の動向について，個別大学のホームページから集計を行った。

1 全国の大学の海外大学との交流の状況

まず，文部科学省の「海外の大学との大学間交流協定，海外における拠点に関する調査結果（平成20年度実績）」（http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/1287263.htm）を基に，全国の大学の海外大学との協定状況を見てみよう。この調査は，海外の大学との大学間協定について，各大学の協定ごとに，協定相手（大学，国），交流の内容について尋ねた結果をまとめている。本誌ではこれを大学単位で集計し，特に海外の大学との，①学生の交流，②単位の互換，③ダブルディグリーについて整理した。大学として1協定でもこの内容を含んでいれば集計対象とし，交流実績（人数）は大学別の合計値を算出した。

大学間交流協定が最も進む国立大学

調査に回答した601校のうち589校（98.0％）とほとんどの大学が海外の大学との交流内容として学生の交流を行っている（図表1）。しかし，海外の大学との単位の互換は249校（41.4％），ダブルディグリーは80校（13.3％）と少なめになっている。ただしダブルディグリーについては，実施校数が前年（平成19年度大学改革状況調査）は69校だったことから，日本の大学生が海外の大学で授業を履修する機会は急速に整備されつつあるといえる。国公私立別に見ると，単位の互換，ダブルディグリーのいずれについても，国立大学で最も進んでいる傾向が見られる。

学生の交流については設置形態を問わず，ほぼ全回答大学で協定に基づく学生交流制度があると答えており，海外の大学との学生の交流はかなり進んでいるように見える。しかしながら，協定に基づく学生交流の平成20年度の実績を詳しくみると，送出数がゼロの大学は406校（全体の67.6％），受入数がゼロの大学は399校（全体の66.4％）となっており，制度自体は整いつつあるが，全体として見れば，実態としての学生交流はあまり進んでいないようだ。では，どの大学で進んでいるのか。制度の有無だけでなく，実績レベルまでふみこんでみていくことが必要だ。

規模やエリアより個別校の方針が交流実績に直結

学生交流を考える時には，送出と受入の両面があるが，グローバル人材の育成という観点から考えれば，より重要なのは，送出の側面である。そこで，国公私立別に送出数の多い大学順に上位20校（公立大学は送出数実績のある17校のみ）をまとめてみた。

国立大学については，最も多いのが大阪大学の146人で，高知大学，筑波大学と続く（図表2）。規模が大きく，

大都市圏にある大学が必ずしも上位に来ているわけではない。海外への学生の送出数は，規模やエリアなどの条件よりはむしろ，大学としての方針や，こうした取り組みに熱心な教職員の存在などが影響を与えているのかもしれない。なおここでは各大学の協定数については示していないが，協定数が多いほど，学生の交流実態が多いわけではなかった。またダブルディグリーについてみれば，制度があっても，三重大学（21人）を除き，それほど多くの学生がこれを利用しているわけでもない。

次に，公立大学については，1位の国際教養大学が大規模大学でないにも関わらず，送出数は247人，受入数も220人とともに多く，国立大学と比較しても格段に多い交流実績をもつ（図表3）。国際教養大学には及ばないものの，北九州市立大学や宮崎公立大学もかなりの人数を送り出している。

私立大学の上位を見ると，関西外国語大学が最も多く445人，2位の亜細亜大学も407人と，国公私立大学すべてにおいて，この2大学が群を抜いている（図表4）。つづく早稲田大学，慶應義塾大学，桃山学院大学も200人台の送出数になっている。顔ぶれをみると，外国語教育に力を入れている大学や，規模の大きい大学が上位にランクインしている。

図表1　設置者別の実態

	全体	国立	公立	私立
大学数	601校	88校	64校	449校
●学生の交流	589校（98.0%）	86校（97.7%）	64校（100%）	439校（97.8%）
②単位の互換	249校（41.4%）	57校（64.8%）	23校（35.9%）	169校（37.6%）
③ダブルディグリー	80校（13.3%）	21校（23.9%）	3校（4.7%）	56校（12.5%）

図表2　協定に基づく学生送出数のランキング【国立大学】

順位	大学名	協定の内容			協定に基づく学生交流		ダブルディグリー	
		学生交流	単位互換	ダブルディグリー	送出数（人）	受入数（人）	受入（人）	派遣（人）
1	大阪大学	○	○		146	96	0	0
2	高知大学	○	○		122	110	0	0
3	筑波大学	○	○		84	182	0	0
4	東京外国語大学	○	○		74	78	0	0
5	広島大学	○	○	○	71	205	9	1
6	神戸大学	○	○	○	70	69	7	0
7	香川大学	○	○		65	42	0	0
8	小樽商科大学	○	○		60	20	0	0
8	千葉大学	○	○	○	60	105	0	0
10	横浜国立大学	○	○		53	79	0	0
11	金沢大学	○	○	○	41	40	2	0
12	北海道教育大学	○	○		38	70	0	0
13	群馬大学	○	○		36	61	0	0
13	一橋大学	○	○		36	34	0	0
15	長岡技術科学大学	○	○	○	35	37	3	0
16	熊本大学	○	○		33	97	0	0
17	岡山大学	○	○	○	32	44	3	0
18	東京大学	○	○	○	31	61	0	0
19	三重大学	○	○	○	28	24	21	0
20	名古屋大学	○	○		27	6	0	0

（注）協定に基づく学生交流の「送出数」が多い順に並べた。（図表3，4も同様）

図表3　協定に基づく学生送出数のランキング【公立大学】

順位	大学名	協定の内容			協定に基づく学生交流		ダブルディグリー	
		学生交流	単位互換	ダブルディグリー	送出数（人）	受入数（人）	受入（人）	派遣（人）
1	国際教養大学	○	○	○	247	220	0	0
2	北九州市立大学	○	○		116	94	0	0
3	宮崎公立大学	○	○		76	44	0	0
4	長崎県立大学	○	○		38	39	0	0
5	下関市立大学	○	○		21	6	0	0
6	首都大学東京	○	○		11	13	0	0
7	滋賀県立大学	○	○		10	34	0	0
8	釧路公立大学	○	○		7	6	0	0
9	三重県立看護大学	○	○		6	3	0	0
10	横浜市立大学	○	○		5	5	0	0
11	福岡県立大学	○	○		4	4	0	0
12	公立はこだて未来大学	○	○		3	0	0	0
12	名古屋市立大学	○	○		3	2	0	0
12	熊本県立大学	○	○		3	3	0	0
15	島根県立大学	○	○		2	1	0	0
16	福井県立大学	○	○		1	10	0	0
16	県立広島大学	○	○		1	6	0	0

※送出数実績のある17大学を掲載。

図表4　協定に基づく学生送出数のランキング【私立大学】

順位	大学名	協定の内容			協定に基づく学生交流		ダブルディグリー	
		学生交流	単位互換	ダブルディグリー	送出数(人)	受入数(人)	受入(人)	派遣(人)
1	関西外国語大学	○	○	○	445	624	0	43
2	亜細亜大学	○	○	○	407	17	50	0
3	早稲田大学	○	○	○	249	354	36	17
4	慶應義塾大学	○	○	○	222	188	31	16
5	桃山学院大学	○	○		207	176	0	0
6	東海大学	○	○	○	193	107	2	2
7	創価大学	○	○	○	170	69	0	20
8	関西学院大学	○	○		169	133	0	0
9	上智大学	○	○		168	270	0	0
10	立命館大学	○	○	○	145	95	43	35
11	麗澤大学	○	○		135	88	0	0
12	明治学院大学	○	○		117	106	0	0
13	南山大学	○	○		115	151	0	0
14	青山学院大学	○	○	○	95	111	0	0
15	桜美林大学	○	○	○	85	182	0	0
16	立命館アジア太平洋大学	○	○	○	82	123	0	35
17	白鴎大学	○	○	○	79	35	2	0
18	西南学院大学	○	○		72	77	0	0
19	金城学院大学	○	○		66	23	0	0
19	同志社女子大学	○	○		66	66	0	0

2 新設大学,学部・学科設置から見た動向

前項では,全国の大学における交流実績の傾向を見たが,近年,グローバル人材育成の潮流のひとつとして,「国際教養」「グローバル」を掲げる大学も増えている印象をもっている。ここでは,実際にどういう大学,学部,学科が設置されているのか,2000年以降の新設大学,学部・学科設置の動向を一覧にまとめた(図表5)。

《図表5　データの集計方法》

- 2000年から2011年の12年間に行われた,大学の新設,学部・学科の設置や改組を行った組織のうち,グローバル,国際,異文化,外国語,英語などのキーワードを含んだ組織を対象として,グローバル人材の育成に向けた動向を整理した。ただし,大学名に「国際」などを含んだ大学がグローバル人材とはまったく関係ない学部学科を設置した場合や,現時点で廃止となった学科は除外してある。
- 調査内容は,①留学制度,②海外との共同学位プログラム,③英語による授業について,各大学のホームページを基に作成した。
- なお,この一覧表は福井文威(東京大学大学院生)と蝶慎一(東京大学大学院生)が作成し,2000年～2005年は福井,2006年～2011年は蝶が担当した。

前記集計方法の条件に該当する大学・学部・学科を抽出し,これを年度ごとに大学単位で数えたところ,188校だった。設置形態別には,国立11校,公立13校,私立164校となっている。以下では,①留学制度,②海外との共同学位プログラム,③英語による授業について傾向をまとめた。

① 留学制度

まずは留学制度から確認していこう。留学制度は185校(98.4%)が行っており,174校(92.6%)が海外の大学で履修した単位を自大学の単位として認めている。留学といっても期間も多様であり,2カ月未満のプログラムをもっている大学は172校(91.5%),6カ月未満は129校(68.6%),1年以内は159校(84.6%),1年超のプログラムをもつ大学は19校(10.1%)となっている。語学研修や体験型のプログラムなど,2カ月未満のプログラムを用意している大学が最も多く,逆に1年を超えるものはあまり多くない。学生の問題意識ややる気を高めさせ,視野を広げるきっかけとして留学は有効であるものの,1年を超える長期間の留学となるとカリキュラム上の位置づけも難しくなるのかもしれない。

なお,これはあくまでも留学制度の有無であり,実際にどの程度の学生が利用しているかは別の話である。こう

した詳細な実態，しかも大学全体の状況をホームページで発表している大学はほとんどなく，残念ながら詳細はわからない。しかし，大学がどれだけ留学をカリキュラム上重要なものとして位置づけ，多くの学生を海外に送っているのかは，留学を義務づけているかどうかで見ることができる。この188校のうち，留学を義務としているのは26校(13.8％)とそれほど多くはない。また期間も数週間のものから1年間まであり，語学研修や体験型プログラムから，1年間，専門科目をしっかり学ぶものまで幅広い。

そこで，留学を義務づけている大学について，例えば1年間の長期留学を行っている大学をみると，国際教養大学，早稲田大学国際教養学部，立教大学経営学部国際経営学科，同志社女子大学学芸学部国際教養学科(2年次夏から1年間)，関西大学外国語学部，同志社大学グローバル・コミュニケーション学部，関西外国語大学英語キャリア学部などが挙げられる。また，1セメスターの留学を義務づけている大学として，立教大学異文化コミュニケーション学部(半期の留学研修)，日白大学外国語学部英米語学科(2年次の1セメスター留学)，昭和女子大学人間文化学部国際学科(1セメスター留学)などがある。2カ月以上，6カ月未満のものでは，文教大学国際学部国際理解学科(2年次の春学期に3カ月間)，神戸松陰女子学院大学文学部英語学科(約4カ月のホームステイ留学)などがある。2カ月未満のものでは，国士舘大学21世紀アジア学部(3～4週間の語学研修)，法政大学法学部国際政治学科(1年次の夏に約2週間の語学研修)，梅光学院大学国際言語文化学部英語英文学科(2年次の夏に約10週間の語学研修)などの語学研修型のものが多いようだ。

② 海外との共同学位プログラム

次に，ダブルディグリーなど共同学位プログラムを確認しよう。これを導入しているのは15校(8.0％)とそれほど多くない。大学全体で13％の導入率であることからも，グローバル人材の育成に力をいれることと海外の大学との共同学位プログラムが多いこととは必ずしも結びついていないようだ。この理由については2つ考えられる。ひとつは，文部科学省の調査では共同学位プログラムは大学院レベルのものまで含まれていることであり，こうしたプログラムは学部段階では難しいという可能性である。もうひとつは各大学の教育目標に合った個性的なカリキュラムを組んでしっかりと教育をしようとすれば，学部構成なども異なる海外の大学のカリキュラムとうまくかみ合わせることが難しい面があるのではないかと考えられる。たとえば卒業論文は普通はアメリカの大学では課せられないなど，カリキュラムに対する考え方も学士課程では国によって異なっている。また，共同学位の場合，海外の大学から日本の大学に多くの単位を取りに来ることも想定している。つまり，双方の大学でのメリットがある形で，送出と受入の両面の整備が必要だが，こうした学内資源をもちうるのは，現状では大規模大学が多いようである。

共同学位プログラムを実施している例を見ていこう。東海大学では，ハワイ東海インターナショナル・カレッジに海外留学することで，東海大学の「学士」とアメリカの短期大学の「短期大学士」が取得できる。東京国際大学言語コミュニケーション学部では，米国のウィラメット大学，サザンオレゴン大学または韓国の慶熙大学校とのダブルディグリーを取得できる。早稲田大学では，北京大学の双学士または，復旦大学，台湾大学，シンガポール国立大学の学士をダブルディグリーとして取得できる。また，立命館大学では，アメリカン大学，サフォーク大学との共同学位プログラムが，関西大学では，ウェブスター大学とのデュアルディグリープログラムが，明治学院大学はサンフランシスコ州立大学と二重学位制度がある。愛知淑徳大学では中国の天津外国語学院と複数学位取得プログラムを実施している。以上は比較的規模の大きい大学の例であるが，国際教養大学においては共同学位プログラムが行われている。米国のウィノナ大学とデュアル・ディグリーの協定を結び，国際教養大学の学士(グローバル・ビジネス課程)とウィノナ大学の学士(経済学)が取得できるが，最短5年間かかるようだ。

③ 英語による授業

授業科目の多くを英語で行っていることをホームページ上で謳っている大学は21校(11.2％)であった。いくつかの授業やゼミだけを英語で行っている大学まで含めればかなりの数にのぼると考えられるが，実態が把握しづらいこともあり，ここでは「授業科目の多くを英語で行っていることをホームページ上で謳っている」大学に限定して抽出した。

具体例を挙げて見ていこう。ほぼすべての授業を英語で実施している大学として，国際教養大学，早稲田大学国